

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

3-2-①

嬉野市議会議員

田中 政司

実施月日	令和元年 8月26日(月)		
実施時間	午後2時00分～午後5時40分		
調査先	ロワジュールホテル那覇 ・ 航空自衛隊那覇基地		
調査所在	那覇市西3-2-1(ロワジュールホテル那覇) ・ 那覇市字当間301(航空自衛隊那覇基地)		
調査の目的	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会および航空自衛隊那覇基地現地研修視察		
調査先担当者	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義(沖縄県議会議員)		
内容・結果等	<p>《内容》 第14回九州沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会に参加。 内容は、①役員の改選就任 ②会長挨拶 ③来賓挨拶 ④議案審議(平成30年度事業報告など) ⑤大会決議 ⑥次期開催県について(大分県に決定) 原案通りすべて可決総会に引き続き防衛講和が開催 防衛講和 … 講師 航空自衛隊 南西航空方面隊司令官 空将 鈴木康彦氏 演題 「南西諸島を取り巻く安全保障環境」 講和内容 … 南西諸島の防衛環境は沖縄県那覇市を中心にすれば、1,500kmの圏内に香港やマニラ、ソウル、東京などが入り、その海域は広大である。 そのような環境の中、中国海空軍の活動は活発化しており、中国空軍の無人機による偵察活動や中国海軍空母「遼寧」の太平洋進出など日本に対する圧力は拡大している。そのため那覇航空隊においては緊急発進の回数が年間400回を超えるまでになっている。また沖縄においては、県土の面積が2,281km²(全国44位)という狭い中に米軍の施設が1,849km²存在し、その70.28%を占めているとの事であった。 《まとめ・感想》 今回、防衛議員連盟を立ち上げて初めての参加であったが、沖縄の基地の現状や防衛の最先端で任務されている指揮官の貴重な講和、防衛議員連盟に加盟しておられる他自治体の議員との交流は大変有意義なものであった。 外交問題と密接に関係する防衛問題である、憲法問題も含め様々な問題がある中、日本の平和と安定に向けて我々が議員としてできる事に対し、をこれからもしっかりと取り組まなければと考えた研修だった。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	日程 8月26日～28日 旅費及び宿泊費 長崎・那覇往復ビジネスパック	(株) 祐徳旅行	51,376
	合計		51,376

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

3-2-②

嬉野市議会議員

田中 政司

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	午前9時45分～11時40分		
調査先	沖縄県 宜野湾市役所		
調査所在	沖縄県宜野湾市野嵩1-1-1		
調査の目的	米軍普天間基地が在する宜野湾市の現状について		
調査先担当者	宜野湾市 議会事務局 東川上芳光氏 基地政策部基地渉外課長 吉村純氏、同係長 崎原邦子氏		
内容・結果等	<p>《内容》 宜野湾市市長 松川正則氏、宜野湾市議会 議長 上地安之氏を表敬訪問。 宜野湾市長より挨拶を受ける。そのあと基地政策部基地渉外課吉村課長より説明を受けた。 ・市長挨拶要旨・・・宜野湾市の中心部に位置する普天間飛行場においては、市のど真ん中に位置し市の面積の約4分の1の面積を占めている。航空機事故の危険性や騒音被害など市民生活には大きな負担を強いられている。また街の中心部ということで効率的な街づくり(道路網の整備など)を進めていく上で、阻害要因になっており、宜野湾市民としては普天間飛行場の早期返還と返還までの危険性の除去などを強く望んでいる。 ・基地渉外課課長の説明要旨・・・普天間飛行場の概要は、面積が475.9haで市の面積の約4分の1を占めている、飛行場に常駐している機体はオスプレイ24機の他全部で58機である。 宜野湾市の面積20km²のなかには、飛行場周辺に小学校10校、中学校5校、高校4校があり、人口約9万8千人、世帯数4万4千世帯が住んでおり、人口密度は東京や大阪などを上回るものとなっている。</p> <p>《まとめ・感想》 戦後70年もの長きにわたり、航空機事故の危険性や騒音被害に悩まされている周辺住民の負担は想像以上のものがあつた。市の一般会計に占める基地関係収入についても、我々が考えていたものより意外に少なく驚いた。 全面返還の合意から23年が経過した今も実現できていない。宜野湾市民の現状を視察した今回、我々日本人すべてが沖縄の基地問題を真剣に考えなければならないと感じた。</p>		
上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 (円)
	3-2-①と同じ		
	合 計		

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

3-2-③

嬉野市議会議員

田中 政司

実施月日	令和元年 8月27日(火)		
実施時間	午後2時00分～午後4時00分		
調査先	沖縄県 名護市辺野古交流プラザ及び辺野古埋立地ゲート前		
調査所在	沖縄県 名護市辺野古913番地10		
調査の目的	辺野古埋立地の現状と諸問題について		
調査先担当者	沖縄県 名護市議会 議員 宮城安秀氏		
内容・結果等	<p>《内容》 名護市議会議員の宮城氏より沖縄県における米軍基地の状況や辺野古基地建設が計画されている名護市や辺野古地区の現状について説明を受けた。 沖縄県における基地の状況 …… 全国の米軍基地の約70%が沖縄に集中しており、沖縄本島の約15%が基地の施設面積である。その点在する米軍基地施設を今回、辺野古へ集約移設する計画である。 名護市および辺野古地区の現状 …… 名護市の人口は55地区で約62,000人、そのうち辺野古地区は13地区で3,000人が暮らしている。名護市の中心部と辺野古地区は山を隔てており、大半の人は名護市中心部に住んでおり基地建設については実感がないのが現状である、そのような中、今回名護市長選挙において、基地移設反対の市長が当選し移設反対といわれているが、辺野古地区においては受け入れが容認されている。 辺野古基地建設予定地の埋め立てゲート前の視察 …… 午前10時、正午、午後3時の決まった時間に埋め立て反対の人(地元以外、県外の人が多いということ)がプラカードを持って抗議活動をされていた。</p> <p>《まとめ・感想》 辺野古基地建設については、普天間基地を抱える宜野湾市の今までの経緯や現状及び問題点、移転先となる辺野古を抱える名護市の現状など今回の視察において、現地に行かなければわからない現状を視察できたことは大変有意義な視察であった。 戦後70年もの間、沖縄本島の70%を米軍基地が占める中での沖縄県民の生活の現状を、我々もしっかりと把握し、基地返還等の問題を日本人全員で考えていかなければならないと痛感した。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	3-2-①と同じ		
	合計		

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること